

イラン発信

副題

～情報機器の利用を通じた豊かな表現力の育成～

学校名

在イラン日本国大使館附属テヘラン日本人学校

所在地

No18 West Ghobadian St. Africa Ave. Tehran Iran

ホームページ
アドレス

www.tehran-jschool.com

1. 本校の実態

日本にいる日本人にとって「イラン」という国のイメージは、暗く、閉鎖的なものが多い。しかし、本校では現地の博物館や工場見学、宿泊学習などを通じたの現地理解教育に力を入れている。また、本校の児童生徒は、現地の学校とお互いの文化を紹介するなど交流する機会がある。これらの活動を通して、イランのよさを知る機会がたくさんある。同時に全世界に向けて発信する義務がある。現に児童生徒たちからは、それらを外部に伝えたいという要望が強い。しかし、現地の乏しい教育環境では、学習したことを発信したくてもするための十分な情報環境が整っていない。また、児童生徒たちをみると、学習したことを相手に正確に伝える能力（豊かな表現力）が、十分には身に付いていないのが現状である。

2. 研究の目的

豊かな表現力とは、「自分の思いを正確に相手に伝える能力」である。児童生徒たちが学習したことを表現したいと思う意欲を喚起するために、パソコンやデジタルカメラなどの情報機器の利用は効果的であると考え。そこで、情報機器を利用し、学習したことを相手に正確に伝える能力（豊かな表現力）を高めていく。

3. 研究の方法

- (1) スライドショーの上映
- (2) 学年通信・学校通信の発行
- (3) 現地理解教育
- (4) 発表朝会
- (5) ホームページの作成・更新
- (6) 国際交流活動

4. 研究の内容と経過

(1) スライドショーの上映

週末を上映日に決め、保護者が児童生徒を迎えに来る時間に、その週の子どものたちの活動の様子を写真にまとめて上映した。スライドショーを上映することで、普段の授業や生活の様子がわかりやすく伝わり、保護者及び児童生徒に好評であった。



(2) 学年・学校通信の配信

学年通信は、毎週、週始め又は週末に各担任が発行している。(2013年3月現在各学年36号平均)
また、その内容は、毎月1回更新される本校ホームページにも掲載されている。

学校通信についても月1回、メールにてPDF形式で保護者や日本人会の人たちに配信している。
これらの取り組みにより本校保護者だけでなく、過去に在籍していた児童や保護者、日本人会の人たちなど、より多くの人々が学校での活動を気軽に見られるようになった。

(3) 現地理解教育

<校外学習>

小学部3年生から6年生および中学部の総合的な学習の時間の学習ではイランについて様々な角度から学習し、理解を深める取り組みを行った。その一環として、月に1回程度、校外学習を実施してきた。月ごとに発達段階に応じた学習テーマを設定し、現地スタッフからの講義、博物館等の見学を通して、子どもたちは五感でイランの文化の奥深さや日本の文化とイランの文化の共通点などを体感することができた。また、学習したことがらをまとめる活動を通して、相手を意識して書き、正しく伝えられるようになってきた。

4月 アーザーディ・タワー（イランについて広く知ろう）

5月 サアダバード宮殿（パフラヴィー王朝について知ろう）

6月 ゴレスタン宮殿と民族学博物館（民族衣装について知ろう）

9月 宿泊学習（小3～中3） アブヤーネ村ほか（イランの地方都市について知ろう）

ペルシア絨毯の工場（ペルシア絨毯について知ろう）

校外学習（小1、小2） エラムズ動物園・ダルアバド自然博物館（イランに住む動物や植物について知ろう）

10月 イラン国立絨毯博物館（ペルシア絨毯について知ろう）

11月 タジリッシュ・バーザール（イランの料理やお菓子について知ろう、ペルシア語を使って買い物をしよう）

12月 イラン歴史博物館（イランの歴史について知ろう）



<中学部ペルシア>

週1回の学習を通して、月ごとのテーマに基づいた学習を行った。基本的な流れとして①現地スタッフからの説明②テーマを追究できる場所での見学③学習したことがらのまとめ を1か月で完結できるように配慮した。

4月 イラン概観（テヘランの観光地、祝祭日、お金）

- 5月 パフラヴィー王朝について
- 6月 イランの民族衣装について
- 7月 イラン・イラク戦争について
- 9月 ペルシア絨毯について
- 10月 イラン料理とお菓子について
- 11月 イスラム教とイランの宗教行事について
- 12月 イランの歴史について
- 1月 イランのスポーツについて
- 2月 イランの代表的な産業について
- 3月 イランの新年の祭りについて



<各教科> (取り組み一部のみ掲載)

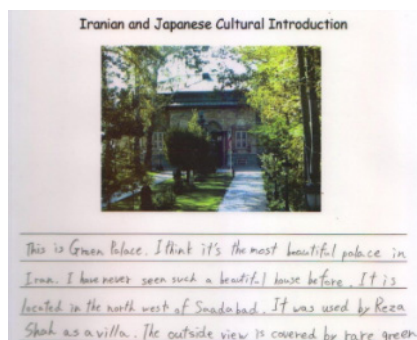
～英語科～

イランの特徴、よさを英語で伝える授業を取り入れ、ホームページで発信した。

○中1「日本人学校紹介」

○中2・3「イランのお勧めスポット」「イランの夏休み」

「職場体験学習レポート」「宿泊学習 in アブヤネ村の思い出」



「イランのお勧めスポット」



「日本人学校の紹介」

～音楽科～

イランの伝統楽器セタール、タール、タンブール、トンバックの演奏を生で聴く機会を設けた。さらには、イランの歌を現地語ファルシーで練習し、学習発表会で披露した。



「学習発表会でのタールとの共演」

～算数科～

小学部5・6年「イラン式算数授業」

イランの5年生の教科書の一部を使用して、日本人学校の5・6年生に授業をした。普段なら簡単にで

きるはずの「小数のたし算」と「かけ算の筆算」に苦戦しながらも、次第に慣れてくるとすらすらできるようになる子も出てきた。その活動報告を本校ホームページにて行った。

～学級活動～

小学部5・6年「ものの値段・お金の価値を調べよう」

実際にお店に出向き、子どもたち自身で商品の写真撮影や価格調査、エクセルによる活動のまとめを行った。写真を撮ったりエクセルを使用する中で子どもたちの中から、もっと色々な物を調べてみたいという意欲が湧いてきただけでなく、イランのお金の面から見る現状を知ることができた。

<イラン式算数の授業 PART1>

イランの5年生の教科書の一部を使用して、日本人学校の5・6年生に授業をしました。もちろん数字はペルシャ数字！算数なら簡単にできるはずの「小数のたし算」と「かけ算の筆算」に大苦戦！？でも慣れるとすらすら出来るようになる子も出てきました♪



ペルシャ数字を覚えて使いこなすのは
かんたんではありません！！ ※ 日本と小数点の打ち方
がちがいます。覚えるかな？

	チョコ	355g	50000R	このチョコは中に 果物のドロップとし たおいしいものが 入っていてとても おいしいです。
	トマトソース	700g	21000R	パスタなどにつけて 食べる人が多い です。

<感想>

調べて思ったことは、皆さんがよく使う洗剤などが日本では高いけど、イランでは安い（約日本の半額）ことが分かってよかったです。
イランのマغازにも日本と比べて高い物があると思うので、機会があれば家族で散歩がてら調べてみたいと思います。

算数「ペルシャ数字を利用した授業」

学活「物の価格調査・考察」

<クラブ活動>

月1回放課後にクラブ活動で、記者クラブを発足させ、「東日本大震災で被災した人々に対するイラン人の想いを届けよう」をテーマにし、イランの人々が東日本大震災に対し、どのような想いをもっているのかを知るため、街頭に出て現地語ファルシーでインタビューをした。



児童生徒による取材活動



強く感じたイラン人の被災者への想い

(4) 発表朝会

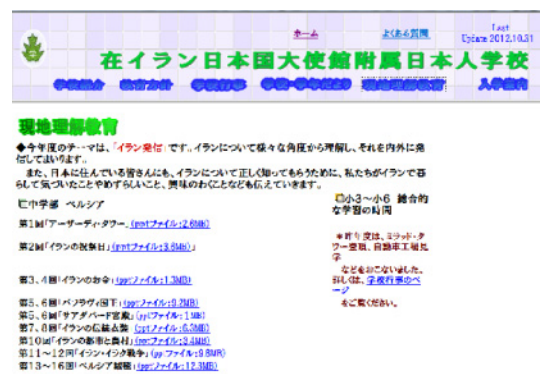
週1回の全校朝会で、各教科や行事における習熟やまとめを全校児童生徒の前で発表した。パワーポイントでプレゼンテーションの資料を作成し、それをプロジェクターで大きく拡大して効果的な発表を行うことができた。以下11月現在までに行った内容である。その他、社会の新聞作りや課題解決学習において、デジタルカメラやインターネットを効果的に活用することができた。

〈発表の内容〉

- ・友達について発表しよう（国語）
- ・説明の仕方を工夫しよう 印象に残る説明をしよう（国語）
- ・ようこそ私たちの町へ（国語）
- ・開校記念日について（委員会）
- ・前期の振り返り（委員会）

（5）ホームページの作成・更新

昨年までの内容を一新し、現地理解教育、クラブ、委員会、学校・学年通信のページを新設した。また、よりタイムリーに情報を発信するため、これまでの学期1度の更新から月1度の更新にした。これらにより、現在本校のホームページは、学校生活の活動をより多くの人に幅広く閲覧することができる場となっている。



（6）国際交流活動

現地校とは、教師間、学校間の交流活動を継続して行っている。6月に現地校の教諭が本校の図工の授業を見学に来たり、昨年度共同で制作したパッチワークや絵をお互いの学校で展示したりした。また、学習発表会では、補習校の児童生徒と一緒にイランの歌を歌ったり、踊ったりした。



補習校の子どもたちとの交流

5. 研究の成果と課題

（成果）

○現地理解教育の推進

表現内容を豊かにするには、伝えたい自分の思いが豊かであることが不可欠である。現地理解教育や国際交流活動等を通して、イランの文化やイラン人についてこれまで「未知」だったことが少しずつ減っていくとともに、新たな知識を習得し、表現する幅を広げることができた。また、学習したこと（知識・技能）や学習して考えたこと（思考・判断）が充実し、伝えたい自分の思いが豊かなものとなった。これは、子どもたちはもちろんのこと、教える側である教師にも同様のことが言える。研究を始めた当初に比べて、イランの文化、イラン人について確かな理解をすることができた。

こどもたちは、学習し、理解したことをレポートにまとめ、保護者を初めとする来校者、ホームページを介して世界の人に伝える活動を通して、また、教師はホームページや各種通信などにまとめる

こと、学んだことをそれぞれの教育活動に有機的に活かすことを通して、現地理解教育や国際理解活動で得たものがより広く活用され、研究目標であるイランに対する正しい認識に繋がった。そして、日本に住んでいる人たちにもイランのよさを正しく伝えることができたと考える。

○表現技能の確実な定着

表現技能を豊かにするには、「学んだことをどう伝えるか」といった、伝える技能の充実が不可欠である。各教科で学習したことをプレゼンテーションソフトなどを使って全校児童生徒に伝える発表朝会などを通して、声の表情や聞き取りやすさ、幅広い年代に応じた分かりやすい表現の仕方といった場に応じた伝え方を学ぶことができた。また、言葉だけでは理解しにくいものに対してはデジタルカメラやビデオカメラなどの映像機器を使い、写真や動画などで表示することでより分かりやすい伝達方法を選択することができた。発表場面では、必要に応じてパソコンやプロジェクターなどの情報機器を使ったり、実演をしたりと適切な手段を選択して効果的に伝える力も育成することができた。情報機器の整備と活用、多様な表現方法の習得により、豊かな表現技能を身につけることができたと考える。

さらには、日々来校される保護者、校外学習等でお世話になる日本人会の皆様、他の児童生徒、現地校・補習校の児童生徒との関わりの中で、他者と積極的にかわり合おうとする意識も芽生えてきた。そして、学習発表会での合同演奏や運動会での合同種目の設定など、意図的にコミュニケーションを図る場を設定し、他者を意識することにより、表現方法をより豊かにすることができたと考える。

(課題)

○継続的で系統的な活動を

現地理解教育では、現地の各機関の協力が不可欠である。しかし、連携がなかなかうまくとれないことがあり、見通しをもって計画的に実施することが困難であった。しかし、来年度も各教科や学校行事等、様々な分野において、一つ一つの活動を系統的につなげることが大切であると考え。今後このような取り組みを継続し、児童生徒の「豊かな表現力」を育んでいきたい。

○マンネリ化しない学習カリキュラムの編制

本校のような在外教育施設では、児童生徒の入れ替わり、教師の異動が頻繁に起こり、カリキュラムを編制してもそれが長続きしないことがある。今後は不規則な状況下で、いかに子どもたちに「学ぶ意欲」を持続させるかを研究していきたい。